

斜林ベース工法で用いられる主なポット苗木

苗木設置吹付工

斜林ベース工法

ヤマハギ



ヌルテ



ヤマハゼ



アキグミ



シモツケ



ヤマモミジ



ヤマザクラ



ヤシャブシ



導入する植物材料(苗木)は、緑化の目的・目標を充分把握し、自然条件や立地条件を考慮して、導入植物の特性(適応性)等、総合的な検討を行ないます。

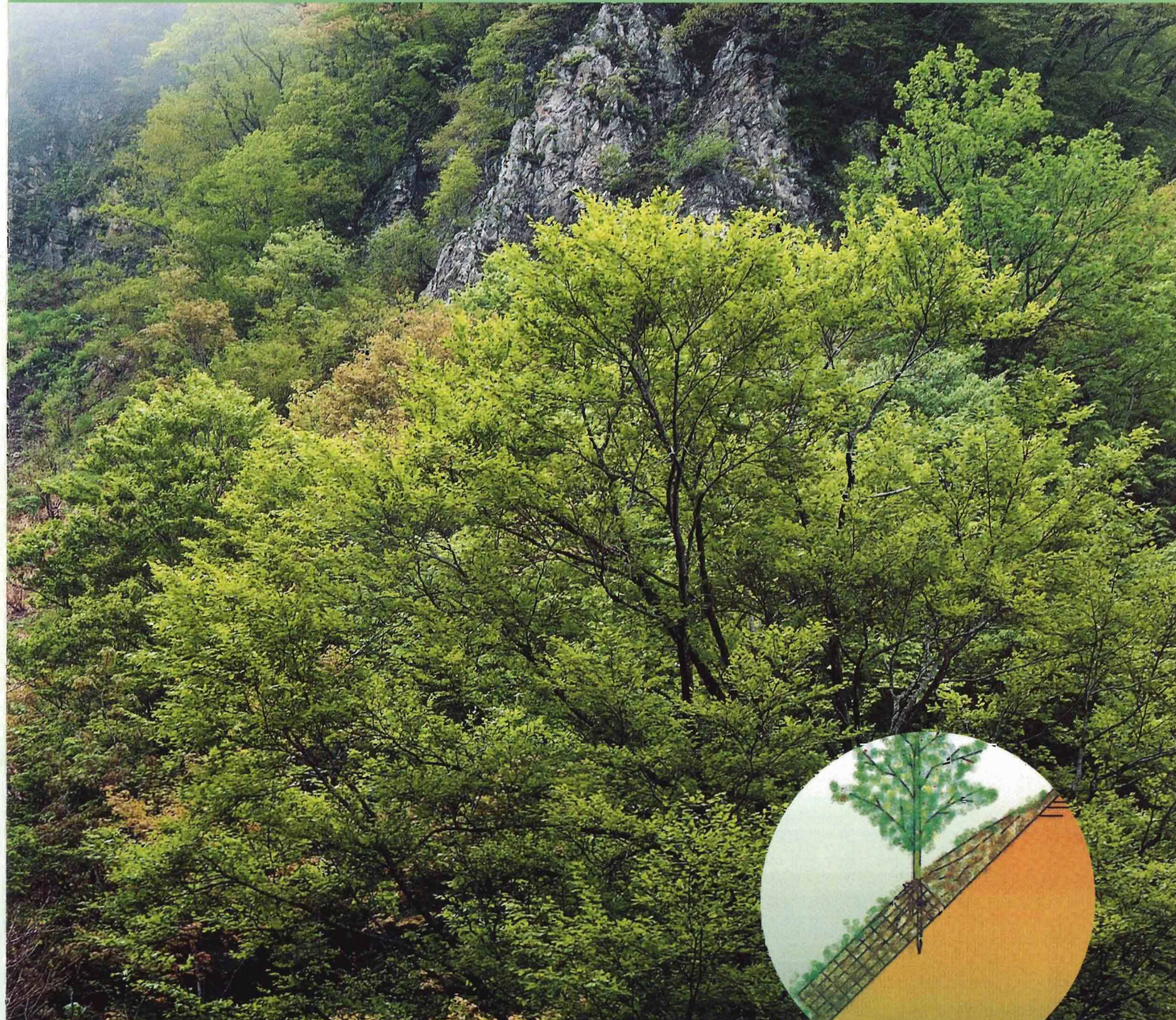


自然再生緑化工協会

事務局 〒310-0903 茨城県水戸市堀町959番地
(株)水戸グリーンサービス内
TEL: 029(225)2754 FAX: 029(227)2783



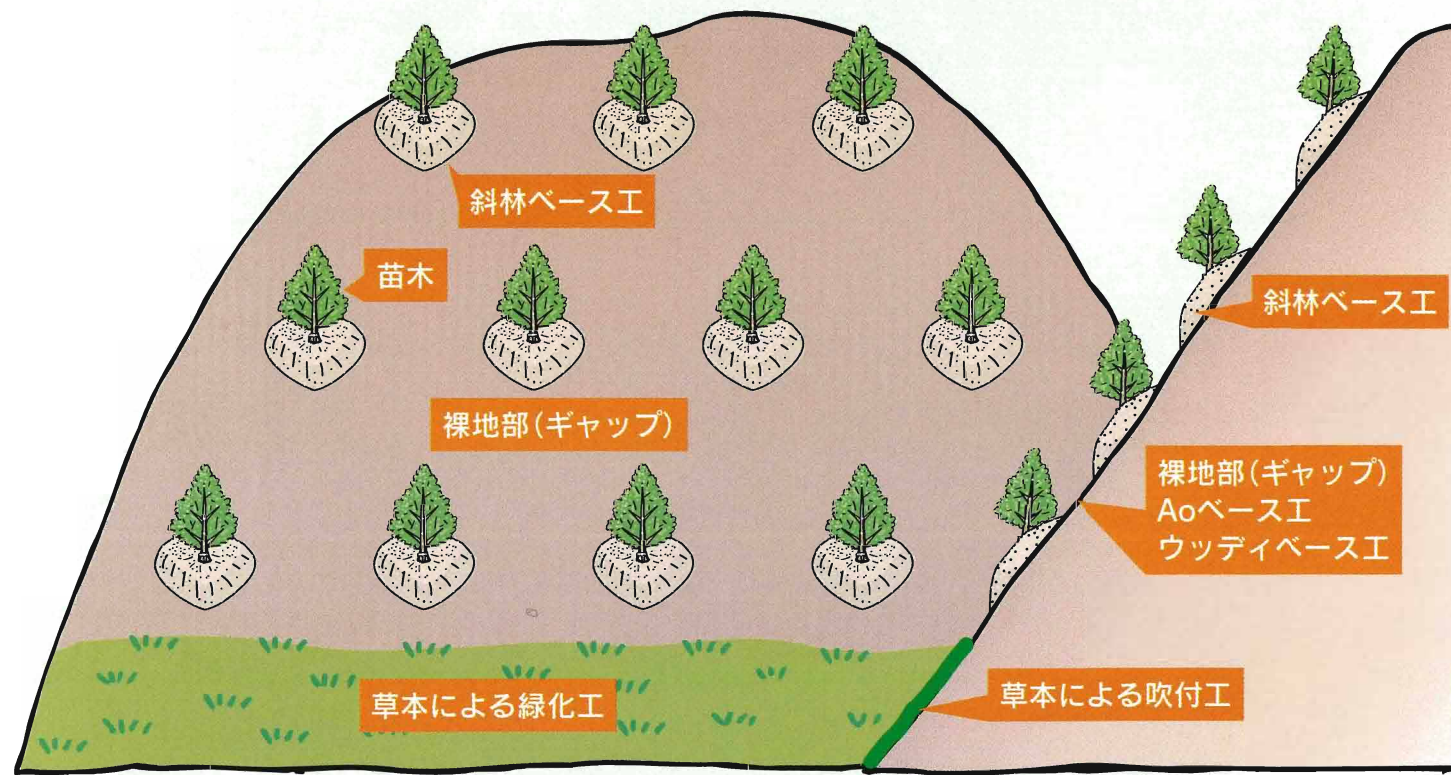
自然再生緑化工協会



苗木設置吹付工による早期樹林化 自然再生緑化工

斜林ベース工法

斜林ベース工法は、地域で育成、栽培された在来種木本ポット苗を斜面苗木固定具「斜林ベース」を用いて適宜間隔で設置し、裸地部（ギャップ）に自然植生の侵入を促進し、あるいはAoベース工（埋土種子緑化工）やウッディベース工（未分解チップマルチ工）によって自然植生の回復を図る工法です。導入された苗木は鳥類の止まり木となって鳥撒布種子の定着を促進します。

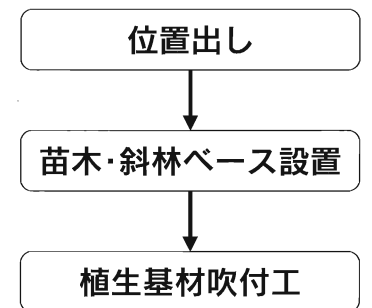


斜林ベース工法の特徴

1. 苗木の根鉢をアンカーピンで刺して法面に固定し、同時に基盤材保持金網がワンタッチで固定できます。
2. 斜林ベースには斜面への貯水部があるため、活着性に優れています。
3. 緑化の目的、目標、予算に合わせて、苗木の種類や導入ピッチが自由に設定でき、経済的でデザイン的な配置も可能です。

斜林ベース工施工順序

施工フロー



苗木・斜林ベース設置工



吹付工



施工直後
ヤマブキ



施行後8ヶ月



施工中
ウツギ



施行後8ヶ月



施工直後
ヒサカキ



施行後8ヶ月



設置ピッチと被覆率

設置ピッチ	箇所/100㎡	被覆率
1.5m×1.5m	44.4箇所	40%
2.0m×2.0m	25.0箇所	25%
2.5m×2.5m	16.0箇所	16%